

F A X 送 付 状



送信先 報道各位
送信枚数 本紙を含めて 2枚
送信日 2016年 12月 5日

大型類人猿の脱出を想定した対応訓練を実施します

本格的な寒さがやってまいりました。皆さまお元気でお過ごしのことと拝察いたします。

さて、日本モンキーセンターでは今年も**大型類人猿脱出時対策訓練**を実施いたしますので、お知らせいたします。実施日は**12月7日(水)**です。

2000年8月19日に起こした事故から16年が経過しました。日々、反省し業務を迫行するため毎年訓練をおこなっています。世代交代の波もあり、当時を知るスタッフがほとんど居なくなりました。今回の訓練は「危険動物を扱う仕事」を認識し、緊急時に一人一人が何をするか、どう連携し行動するか再確認するとともに、現職員全員が過去の事故を把握する目的に行います。

訓練終了後、事故の当日に居たスタッフより、全職員へ当時の事故を振り返り説明をする時間を作りました。過去の過ちを繰り返さないように、スタッフ一同この訓練で気持ちを引き締めます。

実施日：2016年12月7日(水) 雨天決行

時 間：13:00～13:45

参加者：動物園全職員(約30名)

想 定：アフリカセンターよりニシゴリラ(体重約150kg)が逃走。捕獲班、麻酔班、避難誘導班、救護班に分かれニシゴリラの捕獲とお客様の誘導、救護をおこなう。

◇訓練紹介

日本モンキーセンターは、毎年2回の訓練に真剣に取り組んでおります。1回は計画担当者1名以外、想定はもちろん日程も時間も知らされず、突然実施する「**招集訓練**」です。休みの職員は携帯電話などでモンキーセンター到着までの時間を報告するなどして、よりリアルなデータを収集し、万が一に備えます。もう1回はある程度の想定を元に、ほぼ全職員が参加して実施する「**総合訓練**」です。

今回の訓練は「**総合訓練**」になります。総合訓練では30名以上の職員が参加し、避難誘導、救護、捕獲や連絡など、それぞれの役目に応じて訓練に参加、問題点の洗い出しなどを行います。捕獲にはサスマタ、捕獲ネット、催涙スプレー、麻酔銃などを用います。(※麻酔銃は法律により模擬銃を使用します。)

※脱出したゴリラ役(飼育スタッフ)がどのような行動をとるか、基本的にはシナリオはありません。発見場所と捕獲場所はおおよそ設定し、逃走経路や反撃程度はゴリラ役の職員に一任します。

※ゴリラの握力は約700kgとも言われます。訓練では、ゴリラに接触したスタッフは「負傷」したことになり、救護班による搬送、救護をおこないます。

※誘導班は、ゴリラの動きを把握しながら、入園者役のスタッフを安全な場所まで誘導します。

本件に関するお問い合わせ先

〒484-0081 愛知県犬山市犬山官林 26

公益財団法人日本モンキーセンター 学術部

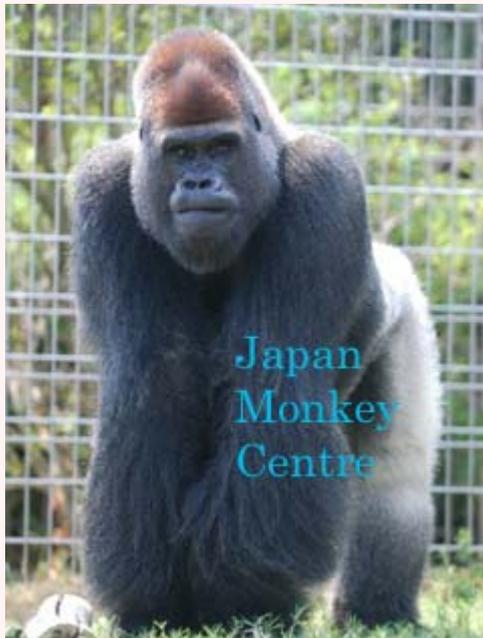
TEL : 0568-61-2327 FAX : 0568-62-6823 メール : info@j-monkey.jp

担当 : 附属動物園部 坂口、星野、山田 学術部 高野、赤見、江藤、新宅、綿貫

【資料:ニシローランドゴリラについて】

※ニシローランドゴリラは、ニシゴリラの亜種のひとつです。

ニシローランドゴリラ



英名	Western Lowland Gorilla
学名	<i>Gorilla gorilla gorilla</i>
CITES	I
IUCN	CR

分布



ナイジェリアからコンゴにかけてのアフリカ大陸西部

会える場所

[アフリカセンター](#)

- 現生では最大級の霊長類。
- 性差が大きく、オスは大きいもので体重 200kg を超えるものもいるが、メスは 100kg を超えることはない。
- オトナのオスは背中の中節の体毛が白くなり、シルバーバックと呼ばれる。
- 1頭のシルバーバックと複数のメスとその子供によるハーレム型の集団をつくる。大きな群れでは複数のシルバーバックが存在することもある。
- 果実や草、葉、つるなどを主に食べる。
- 地上では、手の指の中節の背側を地面につけるナックル歩行で移動する。大きな体だが、実は木登りも得意。